

## [041] 中国文学論集表紙奥付等

<https://hdl.handle.net/2324/27308>

---

出版情報：中国文学論集. 41, 2012-12-25. 九州大学中国文学会  
バージョン：  
権利関係：

彙報

○開講科目(二〇二二年度)

【全学教育科目】

\*印は他講座教員との共同オムニバス授業

古典の世界「中国古典の世界」(前期)

竹\*村 教授

【文学部・学科共通科目】

文学基礎(前期)

竹\*竹\*村 教授

コアセミナー(前期)

竹\*村 教授

中国語(中級)ⅢⅣ・中国語初歩ⅠⅡ

九州産業大学 呉紅華 教授

中国語会話ⅠⅡ・中国語作文ⅠⅡ

杜 教師

中国語科指導法Ⅰ(後期)

北九州市立大学 平田直子 准教授

【文学部・中文講座科目】

講義 中国の出版文化と中国文学史研究

竹村 教授

演習 『東周列国志』演習

竹村 教授

演習 杜詩講読ⅠⅡ (梅光学院大学)

中尾健一郎 准教授

演習 古代詩文選読

杜 教師

演習 中国文学研究法

杜 教師

演習 中国語文法研究(言語文化研究院)

西山 准教授

集中講義 上古漢語の音韻に関する諸問題(後期)

(放送大学) 宮本 徹 准教授

【人文科学府】

講義 中国の出版文化と中国文学史研究

竹村 教授

演習 王昭君文学史研究

竹村 教授

演習 杜詩研究ⅠⅡ (梅光学院大学)

中尾健一郎 准教授

演習 中国文学研究法

杜 教師

論文指導 中国語学中国文学の諸問題

竹村 教授

○学位論文

(二〇二二年三月学位取得)

蕉園女流詩人研究

[修士(文学)] 李 恬

李白詩における笛

[学士] 矢原 千裕

姐己妖変考

[学士] 神代 さおり

身体接触描写から見た『紅樓夢』林黛玉考

[学士] 古賀 文也

中国古典文学における曲水の宴

[学士] 新谷 香織

現代女流作家梅娘の女性観について

[学士] 深町 麻未

櫻花と日中文化交流

[学士] 本田 悠

(二〇二二年九月学位取得)

『藝文類聚』を中心とした唐代勅撰類書の研究

[博士(文学)甲] 大淵 貴之

『日本雑事詩』に見る黄遵憲の日本体験

[学士] 西村 紗理

○中国文藝座談会

第二五七回(二〇一二年二月四日) 於四階會議室

『史記』における項羽と劉邦像 大平 倫 嵩

陶晶孫の福岡滞在と九大フイルハーモニー会

幸島 光 義

『風景』の発見以前—中国伝統小説の場合—

中里見 敬

敦煌変文における近称指示詞の諸相 西山 猛

第二五八回(二〇一二年三月三日) 於四階會議室

中国文学における子女描写 金見 正 悟

中国初学教育における『千字文』 吉田 光 一

明代文人の交友—王世貞と李攀龍の書簡を中心に—

土屋 育 子

三国戯中関羽の称謂 戚 世 雋

第二五九回(二〇一二年四月二十八日) 於教育学部一階會議室

胡応麟の小説蒐集—『搜神記』を手がかりに—

雁 木 誠

蕉園詩社の成立について

蘇軾父子和陶詩 李 恬

元朝統治下の劉辰翁 原 田 愛

第二六〇回(二〇一二年八月四日) 於四階會議室

武周革命と洛陽の詩歌 奥 野 新 太 郎

楊万里と周必大 種 村 由 季 子

李 祥

清末民初におけるマーク・トウェインの移入と日本

— 陳景韓訳「食人会」を例として — 梁 艶

文人尺牘から書簡体文学へ—周作人の場合—

呉 紅 華

第二六一回(二〇一二年九月十五日) 於四階會議室

崔令欽の「教坊記」製作について 劉 潔

元稹「連昌宮詞」とその故地 長谷川 真 史

留学時期における草野心平の詩風と徐玉諾 裴 亮

第二六二回(二〇一二年十一月十七日) 於四階會議室

謝靈運の文学創作を支えたもの

— 「山居賦」とその自注を中心に — 東 美 緒

『封神演義』の「鍾伯敬」評について 岩 崎 華 奈 子

歐陽脩新発見書簡の特色について

— 新発見書簡35「又(與孫威敏公)」, 42「與劉侍讀」、

69「與杜郎中」、70「又(與杜郎中)」の四篇と通行本

書簡との重複内容に着目して — 東 英 寿

○他学会・研究会での発表(九大中文室生のみ掲載)

\*第六〇回九州中国学会大会発表

(二〇一二年五月十二日〜十三日、於福岡教育大学)

明代における『搜神記』の刊行と胡応麟 雁 木 誠

清初における女流文学結社の成立

— 蕉園詩社を中心として — 李 恬

李 恬

林羅山『聖蹟図説諺解』に記録が残る明・鄧棨の跋について  
竹村 則行

**\*第十六回宋代文学研究談話会発表**

(二〇一二年五月十九日、於九州大学伊都キャンパス)

宋元交替と劉辰翁

奥野 新太郎

陸游と『世説新語』

甲斐 雄一

蘇軾没後の蘇門―「和陶詩」への意識を中心に―

原田 愛

**\*第二十八回全国漢文教育学会大会発表**

(二〇一二年五月二十六日～二十七日、於福岡大学)

白居易の新樂府「母別子」をめぐって

―中国古典詩における母と子―

奥野 新太郎

**\*第六十四回日本中国学会大会発表**

(二〇一二年十月六日～七日、於大阪市立大学)

中唐における連昌宮の荒廢と元稹

長谷川 真史

**○会員消息(事務局把握分のみ)**

威 世雋 四月、九州大学招聘外国人教師の任期を満了

し、中山大学中文系に帰任。

杜 曉勤 四月、九州大学招聘外国人教師として、北京

大学中文系より着任。

福永 美佳 四月、尚綱大学文化言語学部准教授に着任。

陳 舂 四月、広島大学大学院文学研究科准教授に着

任。

**○会員近著(事務局把握分のみ)**

東 英寿・秋吉 收編著

『異文化を超えて―アジアにおける日本』再考』

(花書院、二〇一一年十二月)

謝冕著・岩佐昌暉編訳『中国現代詩の歩み』

(中国書店、二〇一二年三月)

牧角悦子

『詩経・楚辞(ビギナーズ・クラシックス中国の古典)』

(角川ソフィア文庫、二〇一二年三月)

静永 健・川平敏文編

『東アジアの短詩形文学…俳句・時調・漢詩』

(勉誠出版、二〇一二年五月)

静永 健『唐詩推敲―唐詩研究のための四つの視点』

(研文出版、二〇一二年十月)

中尾健一郎『古都洛陽と唐宋文人』

(汲古書院、二〇一二年十月)

編集後記

本年五月、大震災によって延期されていた我が九州大学百周年記念の諸行事が行われた。目下、大学諸部局では『九州大学百年史』のための各部局史の執筆が行われている。当中国文学研究室においても「近五〇年の中文研究室史」を纏めるべく、竹村教授をチーフとして「九大中文文書室」を立ち上げて諸資料の収集と整理を行っている。研究室の諸行事、また当九大中国文学会の活動である中国文藝座談会について、スナップ写真等をお持ちの方は、研究室までご一方ください。

さて本年は我が九大中文の「生みの親」そして「育ての親」と申すべき目加田誠先生、そして岡村繁先生について、記念すべき行事があった。

まず岡村繁先生については、東方学会の機関誌『東方學』第四百十二輯（平成二十四年七月発行）に「學問の思い出し——岡村繁博士を圍んで——」が掲載された。冒頭に先生のお元気な近影と、入木三分、まことに鮮やかな先生の題字で始まる対談集は、当研究室においても誠に記念となる一篇である。

また目加田誠先生については、そのご蔵書が大野城市に一括寄贈され、現在その整理が進められていることが七月二十一日の西日本新聞朝刊福岡都市圏版に紹介された（「宝の山」目加田文庫に光 一万数千冊 研究者夫妻遺

族が寄贈 大野城市が目録作成中）。当研究室の院生および専門研究員も、目加田先生の高足松崎治之先生のご紹介によって、この夏よりその中国書関係の目録作成や整理に参加させていただいているが、目加田誠先生・さくを先生のご蔵書が「目加田文庫」として、新たに大野城市の文化遺産として保存管理が行われることは、我々にとっても有り難いことである。整理作業の際、幾つかの本の中に鉛筆で書かれた目加田先生の端正な書き込みが目にと留まった。先生の学問の息吹きを感じる思いがした。

（静永記）